



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
一人一人が輝く子どもの姿を求めて



☆10月の目標

☆学習をがんばろう

☆みんなと
なかよくしよう

☆笑顔で
あいさつしよう

☆配布物のお知らせ

1 学校便り

☆保護者の会から

☆今後の行事計画（10月）

21日 弁論大会

28日 授業参観、バザ、
漢字検定

☆四年二組 「だれもが関わり合えるように」
相沢 ゆう心

みなさん、この信号機の絵を見てください。これは、音が出る信号機です。ぼくは、このことをインターネットで調べました。これは、目の不自由な人が横断歩道を安全にわたるために置かれています。工夫されていることは、信号機にスピーカーがついていて、青になると「ピヨピヨ」や「ワッコウ」と音が出ます。同じ交差点でわたる方向をまよわさないように、たてにわたるときと横にわたるときと、音のしゅ類が変えてあります。音が出ることによって、安全に横断歩道をわたることができず、不便な点は、スピーカーが高い所にあるものは、どこから音がでているのか分かりづらいことです。また、わたっていると途中で音がなくなると、方向が分からなくなってしまう。この信号機がなかったときは、周りの音を手がかりに、信号が青なのか赤なのかをはんだんしていました。日本ではこの信号機の音をよく聞いていました。アメリカでは一度も聞いたことがないので、信号を見つけたら音が出るか気にしてみたいと思います。



☆四年二組 「だれもが関わり合えるように」
延原 佳典

みなさん、このもうどう犬の絵を見てください。知っているかもしれないが、もうどう犬は、目の不自由な人を助ける犬です。この絵のように、信号が赤なので止まっています。もうどう犬のことをネットで調べました。もうどう犬は、とくに、かいだんのだんさや横断歩道などで助けまじす。もうどう犬がいれば、ころばないし、けがもしません。ほ助してくれるので、安全に歩くことができます。もうどう犬は、ほえないし、静かです。もうどう犬がいなかったときは、点字や白いぼうを使っていたそうです。ちなみに、白いぼうの名前は、「白じょう」といいます。もうどう犬の不便な点は、レストランやスーパーに行くこと、入れないところがあることです。もうどう犬が目の不自由な人に役だっていることがわかりました。もっと、もうどう犬のことを知りたいと思いました。



☆四年二組 「だれもが関わり合えるように」
降矢 夏希

みなさん、この点字ブロックの写真をみてください。これは、目の不自由な人が、歩くとときに役立ちます。駅や道路にあります。点字ブロックは、ゆかや道の表面に黄色く丸いポコポコがあり、目の不自由な人がその上に立ったときに分かります。点字ブロックに沿って歩くことによって、道をはみ出さないで安全です。でも、点字ブロックの上には違法駐輪されていると、目の不自由な人が通れなくなります。点字ブロックがない場所では、もうどう犬や他の人の力を借ります。点字ブロックがあると、目の不自由な人も、みんなと同じような生活が出来ていいことだと思います。でも、違法駐輪などしていると、目の不自由な人たちにとっては、とてもきげんです。みんな協力し合って生活したいと思います。次は、手の不自由な人がどのような生活をしているのかを調べたいです。



☆六年一組「未来がよりよくあるために、意見文を書こう」

「海をきれいにしよう」吉田ロイス

ぼくは海が大好きです。だから、海がいつまでもきれいで、魚たちにとって住みややすい海でなければいけないと思います。そのためには、ぼくたち一人一人が海を汚さないようにするのが大切だと思います。冬休みにメキシコに行った時ビーチでプラスチックのボトルやフオーク、かんがあたりこちに落ちていました。それを見てショックでした。そして、カメの博物館で、海に捨てられたビニールぶくろをくらげとまちがえて食べてしまひ死ぬカメが多いことを知りましました。海のゴミはほとんどがぼくたちの生活から出ます。たとえば、ポリぶくろ、食品トレー、ペットボトルやたばこのすいがらなどです。海の底にしずんでいる海底ゴミも漁師さんを困らせています。世界で年間800万トンのゴミが海へ流れ、2050年には、重さで魚よりプラスチックの方が多くなると言われています。どうすれば海のゴミを減らせると思いますが。まず、ゴミはゴミ箱に捨て、海や川に捨てないというのを守らなければなりません。また、マイボトルやマイバックを使ったり、使い捨ての製品はなるべく使わないようにすることです。プラスチックの会社は「プラスチックをみんなにたくさん使ってもらわないと困る。」と言うかもしれないし、プラスチックは使い捨てでできてとても便利という人もたくさんいるでしょう。でも最近では、紙のゴミから環境に優しいプラスチックの代わりになる製品を作る会社も出てきました。そして、できるだけ使ったプラスチックは、何回も使うのはどうでしょう。海をきれいにすることは、ぼくたち一人一人の責任です。ですから、できるだけゴミを出さないように工夫しましょう。



☆六年一組「未来がよりよくあるために、意見文を書こう」

「戦争をやめましょう」佐藤 隼人

ぼくは戦争を始めたくありません。戦争になると人が死んだり、けがをしたり、建物などがこわれたり、悲しいことが起こるからです。教科書にものっています。広島に原子爆弾がおとされ原爆ドームのように建物が炎上したり、人々がなくなったり、あとからでも病気になるたりしたからです。それに戦争になると、ふつうの時は人を殺すのは悪い事だと思っていて、に、相手は人を殺すのは悪い事だと思っていて、殺しあいをするからです。本当に悲しいことです。でも、他の国が戦争を始めようとしてくると、ぼくは、他の国が戦争をしたくないと思うくらい強い国になればと思います。そのためには、守るためのぶきは持つても、使い方をみんなです。自分からケンカをしないし、人もケンカなどをしかけないからです。だからみんな、戦争になると人が死んだり建物がなくなったり、悲しい事、大変な事になる事をもっと知って、戦争を始める気にならないように学ぶことが、平和になる事だと思います。



☆六年一組「未来がよりよくあるために、意見文を書こう」

「スポーツは、よりよい未来の第一歩」

村重 太陽

ぼくの願いは、これからの未来がずっと平和である事。その様な考えは、これからの未来に欠かせない事だ。ぼくは、これから人々が平和になるためには、スポーツなどをたくさんやっていけばいいと思う。ぼくは、昨年のオリンピックを見た。あまり平和でない国から来た選手達が、とてもがんばって走っていたのに感動したのを覚えている。今のぼく達のように、やりたい事を出来て、行きたいところに行けるのは、今ぼく達の住んでいる国がとても平和だからだと、改めて実感した。

では、世界中が平和であるために、どうすればいいだろう。そう思った時、ぼくの好きなスポーツが、平和を保つためのカギになるのではないかと考えた。オリンピック、パラリンピック、ワールドカップなどのイベントで、国が一つになって戦う、それはとても大事な事だ。オリンピックに出場すると、みんな喜び合い、身近な人達の大切さが分かんと思う。しかもチームプレーなどで、一人一人の努力が大切だと実感できる。ただスポーツが、平和につながると思わない人もいるだろう。しかし、近代オリンピックには、「オリンピックイズム」という理念があるそう。つまりオリンピックはそもそも、様々な垣根をこえて人類が手を取り合い、世界平和という共通課題に取り組む祭典だ、という考えである。この考えをもとに、スポーツを通して、色々な国の子供達に、本当に大切なことを教えてあげることが出来るであろう。今の平和な暮らしが続いてほしい。そして、平和な地域が増えてほしい。そのためには、人々の笑顔が必要だと思う。スポーツはそれを作る事が出来る。少し難しいかもしれないけど、未来が良くなるなら、やってみても良いかな。そして、この様な人々の働きが、良い未来を作ると思う。



